

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人エコ.エコ

事業名	自然のつながりに気づく事業
助成事業の種類	SDGs 推進事業 地球分野
1. 事業の目的	生物多様性の保たれる空間を広げるために自然保護活動を行なっています。自然理解の輪の広がりを持たせるために、活動の記録の動画配信や自然の中の音楽会などを通じて、自然のつながりを知ってもらい、共通理解の裾野を広げることが目的です。
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	NPO の活動は 2022 年末に 10 周年になりますが、活動の点を線に繋がりたいと考え企画しました。音楽、講演会、観察会などのつながりがいつかは面になり自然の理解者を増やすきっかけづくりになればと考えました。かつて講演会も何度か実施しましたが、大きなうねりにはつながりませんでしたので、一過性で終わらないように動画を作成しました。地元のみぬま秋フェス 2022 で同時開催することができ、地域との繋がりがより強化されました。
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	自然観察会 ・7月24日「虫ムシ探検」活動場所のさいたま市緑区五斗蒔畑で実施。多くの虫たちを観察できました。幼稚園、小学生、中学生の親子が参加しました。帰りに畑の作物を持って帰りました。 ・7月30日「セミの羽化を観よう」見沼自然公園でナイトハイク。アブラゼミの羽化の様子を間近で観察できました。子どもも大人も見つけた時は大喜びでした。 ・8月27日「コウモリ博士になろう」見沼自然公園でナイトハイク。バットディテクター（コウモリ探知機）を全家族が持ちコウモリを身近に感じることができました。後半はプロジェクターで世界のコウモリの紹介をしてもらい、コウモリのクイズにも参加しました。 イベント ・10月23日つながりのある自然に気づいてもらう第1回イベントを実施。内容は、観察会+講演会+音楽会。観察会は、見沼自然公園からさぎ山記念館までの色づいた落ち葉や実を採取し、記念館前にて共同で自然アートを作成しました。さぎ山記念館講座室にて、講演会を実施。日本の学校の取り組みを紹介してもらいました。さぎ山記念館広場にて音楽会を実施。子どもたちは、竹

を使った楽器で雰囲気盛り上げました。

・11月6日つながりのある自然に気づいてもらう第2回イベントを実施。内容は観察会+講演会+音楽会。観察会は秋の見沼自然公園の紅葉をみながら親子で楽しい時間を過ごしました。さぎ山記念館講座室にて、講演会を実施。主にドイツの環境教育や連邦自然保護法についてお話しいただきました。さぎ山記念館広場にて音楽会を実施。エコエコの動画の音楽を手がけている方で、素晴らしい演奏でした。当初8月21日を予定していましたが、コロナの影響で11月6日の「みぬま秋フェス2022」に変更しました。このことはとても幸いし、地元との繋がりもできました。音楽会は会場の雰囲気作りに貢献し、行政の方からも感謝されました。

活動を一過性にしないで、記録は動画として残すことを目的にしました。動画のQRコードのチラシを作成し、色々な場所で配布するように心がけています。

*虫、セミ、コウモリ、イベントの観察会は開始1週間から2日前には下見を実施し、危険な場所はないかまた、案内する内容などを確認しました。

*講演会は事前に資料を送ってもらい、当日配布資料としました。また、動画用に写真を追加して送ってもらいました。

*音楽は場所のレイアウトなど事前に下見してもらいました。

時期	内容
7月24日	虫ムシ探検+動画作成・配信
7月30日	セミの羽化観察会
8月27日	コウモリの観察会+動画作成・配信
10月23日	自然観察+講演会(動画配信)+音楽会
11月6日	自然観察+講演会(動画配信)+音楽会
11月	動画編集終了、講師に確認
12月	動画配信 振り返り次年度に向けて考察

広報実績について

HPで広報 さぎ山記念館チラシを掲示、メールにて広報。チラシ1回目は100部2回目は200部印刷し、エコエコ会員、子育てグループのくーちょきばーていー、おもちゃ図書館、やどかりの里等に配布しました。また、さぎ山記念館にもチラシを置いてもらいました。

<p>4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>・7月24日「虫ムシ探検」参加者大人11人子ども16人。活動している畑での観察会だったので講師の方の説明にふだん気づかないムシたちを見ることができて良い体験になりました。オニヤンマを捕まえて間近で観察しました。</p> <p>・7月30日「セミの羽化を観よう」参加者大人17人子ども19人。茶色いアブラゼミが美しい色で羽化することに参加者は驚いていました。なぜ夜に羽化するかなど皆で考えてみました。その中で天敵ということも学びました。</p> <p>・8月27日「コウモリ博士になろう」大人7人子ども12人。世界でいちばん大きなコウモリの衣装をつけて、大きさを体感。世界を飛び回り観察している講師の方のお話は興味深く、空飛ぶ哺乳類の種類の多さに親子で驚いていました。</p> <p>・10月23日つながりのある自然に気づいてもらう第1回イベントを実施。参加者大人9人子ども9人。観察会は落ちていた木の実や色づいた落ち葉を利用して共同で楽しみながらアートを作成しました。講演会の参加者からのアンケートには何を次の世代につなげていくかを日々考えたいとの記述がありました。音楽会は子どもたちもリズムとって参加してくれました。</p> <p>・11月6日つながりのある自然に気づいてもらう第2回イベントを実施。参加者大人10人子ども9人。観察会は色づいた木々を観察し秋を満喫しました。講演会の参加者からのアンケートには興味深い内容でした。市民が少しでも問題意識を持ち、行動を起こすことが環境保護への第一歩かと思いました。との記述がありました。音楽会はみぬま秋フェスの会場の雰囲気盛り上げました。さいたま市見沼田んぼ政策推進課の方からも良かったと言われました。</p> <p>< 配信した動画 > (1月1日現在)</p> <p>観察会虫ムシ探検 再生回数 142回</p> <p>観察会コウモリ 再生回数 102回</p> <p>講演会ドイツの自然保護 再生回数 73回</p> <p>講演会自然を学ぶ教材 再生回数 43回</p> <p>講演会ゴミ問題を解決する 再生回数 32回</p> <p>講演会ドイツの環境教育</p> <p>講演会教育現場での実戦</p>
<p>5. 費用面での工夫</p>	<p>募金箱を設置しました。2回の観察会はナイトハイクでしたので、プロジェクターを使用しましたが、以前助成いただいた機材を使用しました。広報はメールやLINEも利用しました。</p>

<p>6. 地域社会への還元について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の観察会は活動場所である環境保全型農地で行い、専門の先生から多様な昆虫がいて多様性の豊かな場所であることの評価をいただきました。 ・2回目のイベントは「みぬま秋フェス 2022」と同時開催だったので地元への周知に役立ちました。また、行政との連携を今後構築できそうです。
<p>7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の保たれる空間を広げるための自然保護活動、観察会や畑体験の里山.comも継続し、地元の小学校、地元のイベントの支援も今後とも行っていきます。 ・地元のイベント時に開催できたことは、広報の面でもとても有効でした。今後は、地元のイベントとのコラボ企画や学校などとの共催も視野に入れてみたいです。 ・観察会や講演会の動画を配信することで、自然理解の広がりが見られることを期待します。 ・視覚 景観 聴覚 音楽 知識 講演会など人の感覚を意識した活動を実施し、いずれは味覚 食育へと発展したいです。バイオミクリカードもいずれは作成したいです。音楽を取り入れたイベントを今後実施したいです。